

JACR委員会報告 [安全管理委員会]

西野 善一 副理事長

金沢医科大学医学部
公衆衛生学講座



安全管理委員会は昨年度地域がん登録室を対象とした優先対策(ミニマムベースライン)項目実施状況調査と安全管理措置モニタリング事業を行いました。前者については本号で別に記していますのでここでは後者について述べます。

がん登録安全管理措置モニタリング事業は地域がん登録室の安全管理措置について外部の立場から評価を行うもので昨年度は2県に対し実施しました。モニタリングはインスペクター(調査者)2名で文書類の閲覧と現地調査を実施します。文書類の閲覧は対象のがん登録室から現地訪問前にマニュアル等の規程類や各種記録簿の雛型を入手した上で内容の確認を行うものです。現地調査は登録室を訪問して、1)ヒアリング、2)記録簿の記入状況の確認、3)個人情報保管されているキャビネットや設置場所、これらを施錠する鍵の保管状況などに関する視察、4)鍵の開閉を行う、登録システムにログオンし認証機能の設定状況を確認するなどの試行を半日で実施します。これらの調査が終了した後、インスペクターは結果をモニタリング調書にまとめて検出事項に誤りがないかを登録室に確認します。両者が検出事項について合意した後に安全管理委員会はモニタリング報告書を作成して登録室に送付し、登録室は指摘された欠点への対応が完了する予定日とその他の推奨事項について登録室側が判断した対応の可否を回答してモニタリングが終了します。

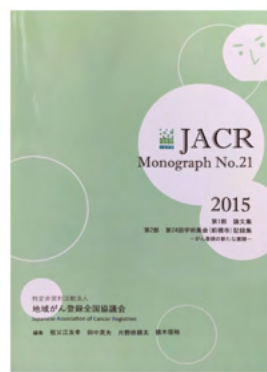
全国がん登録の開始に伴う指針整備の一環として、「全国がん登録における個人情報保護のための安全管理措置マニュアル」の作成がすすめられています。JACRが行う安全管理措置モニタリングについても、新たなマニュアルに対応したものとするとともに、全ての地域がん登録室を5年に1回程度の間隔でモニタリングできるような人員等の体制整備に取り組んでいきたいと考えています。

JACR委員会報告 [モノグラフ編集委員会より]

田中 英夫 理事長

愛知県がんセンター研究所
疫学・予防部

JACRモノグラフは、当協議会が毎年開きます学術集会の記録集として1995年に創刊され、2015年までに21冊刊行されています。ISBNが取得されており、国内では唯一のがんの記述疫学研究に特化した定期単行本です。



JACRモノグラフ最新号

2013年のNo.19から常設の編集委員会を設置し、内容の充実を図りました。具体的には、No.18までの学術集会の記録集としての位置付けに加えて、地域がん登録資料や政府関係資料を用いたがんの記述疫学研究や、がん対策の立案やモニタリングに資する政策的な研究を対象とし、これらの論文を、総説、原著、資料、活動報告、提言

の5つの種類で、投稿を募集しています。投稿されました原稿は、編集委員による査読プロセスを経て採否が決定されます。昨年刊行しましたNo.21では、このプロセスにより7論文が掲載となりました。また、投稿論文と学術集会記録集の他に、付録として、日本の地域がん登録をめぐる足跡を年表の形で示したり、JACRのこれまでの活動経過を示すなど、関係者にとりまして、すぐに役立つハンドブックとしても期待されるような工夫をしています。

編集作業は、祖父江友孝編集委員長、片野田耕太委員と私の3名に加え、その年の学術集会会長の計4名で行います。今年からがん登録推進法が施行となり、がん登録資料を積極的に活用して、効果的ながん対策の実現を図ることが強く関係者に求められるようになります。上記の分野での研究活動発表の登竜門として、また、成果を広く国内にアピールし、これを将来的に引用できる形で残しておきたい方も、奮っての投稿をお待ちしています。

JACR Monographへの投稿案内

http://jacr.info/publication/pub_monograph.html

